



技師



臨床検査技師の仕事

中央検査部長 三宅 俊宏

臨床検査技師をご存知でしょうか？
臨床検査技師は医師の指示のもと各種検査を行なう医療技術者です。臨床検査とは患者さんの身体の状態や病気の原因、重症度や緊急性、治療効果などを評価するために行う検査です。臨床検査には人体から採取した血液、尿、組織等の分析などを行う「検体検査」と、心電図検査や超音波検査など身体から直接情報を記録しその状態を調べる「生理検査」があります。



検体検査

一般検査(尿)	尿にタンパクや糖などが混ざっていないかどうかを調べます。腎臓や膀胱の機能がわかります。
血液検査	血液中の血球成分(白血球・赤血球・血小板)の数や形、働きを調べます。貧血や白血病など血液の病気がわかります。
生化学検査	血液中の酵素、脂質、糖質、無機質、ホルモンなどを測定し、各種臓器の機能を調べます。
病理細胞検査	臓器や組織の一部から標本を作り、顕微鏡で観察してガン細胞などの診断を行う検査です。
微生物検査	採取した検体(血液・尿・便・喀痰など)を培養して、病気の原因となる細菌を見つけ、薬に対する効き具合を調べます。
輸血検査	輸血を行なうために必要な血液型検査や輸血用の血液が適合しているかを調べます。輸血用血液製剤の保管管理なども行います。

生理検査

超音波検査	超音波を用いて体内の臓器を写し、異常の有無を判断します。肝臓・胆嚢・脾臓・腎臓・心臓・体表・血管・子宮や胎児まであらゆる臓器の観察に用いられます。
心電図検査	心臓の脈の乱れや狭心症などの病気がないかを調べます。
脳波検査	頭皮に電極を付け、脳の電気信号を脳波計で記録して、脳の働きやてんかんの診断、脳死判定などに用いられます。
呼吸機能検査	肺活量など呼吸器の機能測定を行い、肺や気管支の状態を調べます。

ここに紹介した検査は代表的なものであり、他にも多種多様な検査を行っています。中央採血室では臨床検査技師が採血業務を行っており、精度の高い検査を維持するよう努めています。また、患者誤認防止のために患者さんの氏名と生年月日を確認させていただいておりますのでご協力をお願いいたします。

最後に私たち臨床検査技師はチーム医療においても専門性を活かし、臨床検査の専門家として努力してまいりますので、よろしくをお願いいたします。